

ようこそ、ロータリーへ



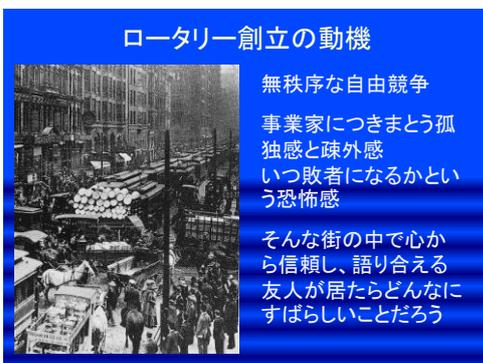
入会おめでとうございます。

数ある奉仕クラブの中から特にロータリークラブを選んで、さらに厳しい審査を経て入会したわけですから、ロータリークラブとはどんな組織のクラブなのか、ロータリーとはどんな理念を持った団体なのか、ロータリーとはどんな活動をするのかなどについて、その概略をご理解いただきたいと思います。



ロータリーが創立された当時は、いかにして利潤を独占しようかと、皆が弱肉強食の競争に明け暮れていた時代でした。特に西部に進出するための交通の要衝として栄えたシカゴは、成功を夢見た人たちが集まった無法と腐敗の街であり、事業主は無秩序な自由競争に狂奔し、同業者はすべてライバルであり、法さえ犯さなければ金を儲けた者が成功者として、すなわちアメリカン・ドリー

ムを達成した人としてもはやされました。

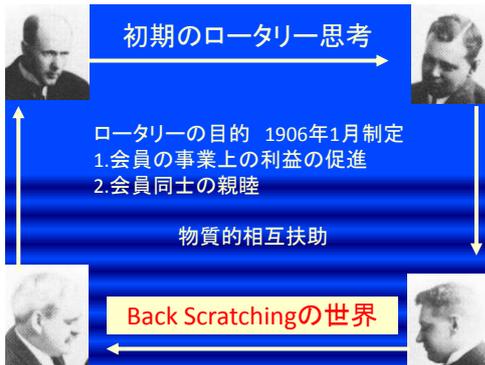


労働者を搾取したり顧客をごまかした取引で大金を得たことに対する後ろめたい気持ちも、僅かばかりのチャリティーをすることで周囲の人も納得しました。騙すよりも騙される方が悪いという風潮がまかり通った、節操のない自由主義がまかり通った時代でした。

すさまじい自由競争の中で生きているビジネスマンにとっては、毎日過酷な日が続き、孤独感と疎外感に加えて、いつこの過酷な自由競争の敗者になるかもしれないという恐怖感が常に付きまとっていました。そんな街の中では親友ができる道理はありません。もしもこの街の中で心から何でも相談できる、また語り合える友人が居たらどんなにすばらしいことだろう。

そういった発想の中から、親睦を主な目的として、弁護士ポール・ハリスはシルベスター・シー





ル、ガスターバス・ロア、ハイラム・ショーレーと共に、1905年2月23日にシカゴ・ロータリークラブを創立しました。

当初は親睦を目的としてロータリーは出発しましたが、せつかく一人一業種でたくさんの仲間が集まったのだから、お互いの商売を利用して金儲けにそれを利用したらどうかという、さもしい発想が浮かんできました。すなわち物質的相互扶助

という考え方が起こってきました。

1906年1月に制定された最初のシカゴ・ロータリークラブの定款・細則の第2条の「目的」には、第1節・会員の事業上の利益の促進、第2節・通常、社交クラブに付随する良き親睦とその他の特に必要と思われる事項の推進と明記されており、当初のシカゴ・クラブには奉仕の概念はなく、事業の繁栄と親睦が目的であったことが分かります。

会員同士の互惠取引が積極的に行われ、堅固で自己中心的な相互扶助のグループを作っていました。自らが搔けない自分の背中を、お互いが車座になって搔き合おうという、バックスクラッチングというエゴイズムで、ロータリーは出発したのです。

親睦と事業上の利益の促進という初期の目的から、今日のロータリーに引き継がれている、独自の奉仕理念を確立するまでには十年近くがかかりました。



現在のロータリーには二つの奉仕理念があります。事業の継続的繁栄を願う職業奉仕理念 *He profits most who serves best* と、他人のことを思い遣り他人のために尽くす社会奉仕理念 *Service above self* です。

「*He profits most who serves best* 最も多く奉仕するもの、最も多く報われる」はアーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した職業奉仕の

理念です。

ロータリーの奉仕理念

職業奉仕理念

- *He profits most who serves best*
- 最も多く奉仕するもの、最も多く報われる
- アーサー・フレデリック・シェルドンの理論
- 利益を優先するのではなく、自分職業を通じて社会に奉仕することを第一義に考えて企業経営をすることが、結果として継続的に利益をえることにつながる

利益を優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に奉仕することを第一義に考えて企業経営をすることが、結果として継続的に利益を得ることにつながるという意味です。

シェルドンは持続して繁栄し発展しているいくつかの企業に共通して見られる特徴を、サービスと名づけました。販売する商品や提供するサービスの品質が高いことが大切です。

顧客に満足度を与える具体的経営方法

- ・ 高い品質 安全性
- ・ 適正な価格 需要供給のバランス
- ・ 経営者・従業員の接客態度
- ・ 豊富な品揃え
- ・ 公正な広告 虚偽・誇大広告
- ・ 高い商品知識 高度な専門知識
- ・ アフター・サービス PL法

リピーター新規顧客の獲得

結果として高い職業倫理に繋がる

の商品に対する知識も大切です。商品のアフター・フォローも大切です。一度自分の店で売った品物に対して責任を持つことが大切です。こういったものを総称して、シェルドンはサービスという言葉を使ったのです。

こういうことが守られている店には、もう一度行ってみようという気が起こりますし、親しい人を紹介しようという気も起こります。一現さんだけを相手にしていたのでは、事業の発展は望めません。リピーターが再三訪れるからこそ、事業が発展するのです。たとえ一時的に客が行ったとしても、その客が一回行っただけで愛想を尽かし、二度と訪れなかったら、その店は必ず衰退します。これは製造業であらうと、小売業であらうと、医者であらうと同じです。これは現在でも立派に通用する真理です。シェルドンの職業奉仕理念は、このことを理詰めに説いているのです。

事業における人間関係学

- ・ 事業上得た利益は、事業主のものではない。
- ・ 事業は、経営者、従業員、取引業者、顧客、同業者すべてによって支えられている。
- ・ これらの人々と、利益を適正に配分すれば、自らの事業は継続し発展することを、自らの事業所で実証する。
- ・ 自らの事業所でそれを実証することによって、業界全体の職業倫理が向上する。

利益の適正配分
倫理基準の向上

の事業が、その町の中で普遍的に営んでいけるのは同業者がいるおかげであることを忘れてはなりません。

シェルドンの
職業奉仕理念は
限りなく
修正資本主義に近い考え方
時代を30年先取りした思考

適正な価格で品物や技術を顧客に提供することも大切です。いつでも、どの場所でも、顧客がリーズナブルだと感じる価格を設定することが必要です。

事業所における経営者、従業員の接客態度もサービスです。無愛想な態度をとられると、二度と行きたくなくなるものです。十分な品揃えもサービスです。公正な広告もサービスです。取り扱い

もう一つは人間関係学から見た利益の適正な再配分です。私たちがロータリアンの身分を保っているのも、ロータリーの会合に出られるのも、ひとえに自分の事業が上手くいっているからです。

これは、事業主の力量によるところが大ですが、会社で働いてくれている従業員、事業所に色々な品物を納めてくれている取引業者や下請け業者、事業所から品物を買ってくれる顧客、さらに、そ

事業主を取り巻く全ての人たちのおかげで事業が成り立っていることを考えるならば、得た利益を、事業主が一人占めするのではなく、事業に関係する人たちと適正にシェアをしながら、事業を進めていけば、必ずその事業は発展していくはずで、そのような経営方針を採用して事業が発展していく様子を、自らの事業所をサンプルとして実証すれば、同業者の人たちは、その事業態度を真

似るに違いありません。そうすれば、業界全体の職業倫理が上がっていくというのが、**He profits most who serves best** のもう一つ意味です。この考え方は今も昔も変わらない真理です。

さらに特記すべきことは、シェルドンの職業奉仕理念の根底にあるのは、修正資本主義と非常に似通った考え方です。

修正資本主義とは、世界大恐慌に定処するために 1935 年にケインズが提唱した政策ですから、まさに時代を 30 年先取りした思考であるという点です。

すなわち当時のロータリアンは時代を 30 年先取りした経営学を学び、それを実践していたのです。すなわちロータリアンはロータリー活動を通じて時代を先取りした非常に大きなメリットを得ていたわけです。このメリットこそが、その後のロータリーの発展に大きくつながっていったのです。

19世紀の資本主義

資本家 対 労働者 対立の構図

- ・ロータリーが創立された当時は、資本家の欲望が労働者を搾取した時代
- ・利潤をあげるために、いかに安い賃金で労働者を雇うか
- ・労働者の貧困、失業
- ・無秩序な自由競争による経済恐慌

資本主義とは産業革命後の社会における資本家と労働者による経済体制のことで、資本家対労働者の対立の構図だと考えられています。

19世紀から20世紀初頭、すなわちロータリーが創立された当時は、醜い資本家の欲望が労働者を搾取した時代でもありました。

資本家が原材料費から労働者に支払った賃金を差し引いたものを利潤だと考えれば、いかに安い賃

金で労働者を雇うかが利潤を増やす鍵となり、そこが労働者の貧困、失業などの問題や、無秩序な自由競争による経済恐慌などの大きな社会矛盾を生む原因になりました。

修正資本主義

- ・資本主義のもたらす社会矛盾や害悪を緩和するための施策 修正資本主義
- ・ジョン・ケインズ
 - 法規制による資本家の活動規制
 - 公共事業等による失業者対策
 - 従業員の福利厚生
- ・シェルドンの理念
 - 経営学の原理原則に基づく企業経営
 - 利益の適正配分 従業員対策

資本主義のもたらすこれらの社会矛盾や害悪を、資本主義の大枠の中で和らげたり克服するために考えられたのが修正資本主義です。

政府が公共事業などで失業者を減らしたり、法律で公害や悪い環境をもたらず資本の活動などを規制したり、従業員の福利厚生を図ったりして、これらの矛盾を和らげていこうという考え方です。

この考え方を発表したのがジョン・ケインズで

あり、その著書の中で、資本主義のもたらす貧困、失業、恐慌などの社会矛盾や害悪は、資本主義制度そのものを変えなくても、ニューディール政策やマクロ政策の展開、政府による公共投資などによって企業家のマインドを改善することで、緩和し、克服できると述べています。その考え方のことを修正資本主義と呼んでいます。

ケインズは 1901 年にケンブリッジ大学を卒業して、この著書を書いたのは世界大恐慌後の 1935 年ですから、シェルドンはこの考え方を 30 年も先取りしていたことは驚異的なことです。

これはとりもなおさず、シェルドンが学んだミシガン大学の経営学部では1890年代にすでに修正資本主義を先取りした研究が行われていたことを物語ります。

シェルドンの職業奉仕理念は、継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営む、すなわち会社経営を経営学の実践だととらえて、原理原則に基づいた企業経営をすべきだと考えました。さらに良好な労働環境を提供するのは資本家の責務であると考え、資本家が利益を独占するのではなくて、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分することが継続的に利益を得る方法だと考えたのです。すなわち当時からすれば、来るべき修正資本主義を先取りした彼の考え方は極めて斬新なものであったと言えましょう。

1908年にシカゴ・ロータリークラブに入会したシェルドンは、その考え方をロータリーに導入し、1911年に、当時のロータリークラブ連合会が、そのままロータリーの奉仕理念として採択し、さらにその考え方が職業奉仕となって現在に至りました。

ロータリーの奉仕理念

社会奉仕理念

- Service above self
- 超我の奉仕
- 他人のことを思い遣り、他人のために尽くす
- 社会奉仕・世界社会奉仕活動

自立を助けるボランティア活動

ロータリーのもう一つの奉仕理念は、「Service above self 超我の奉仕」という人道的奉仕活動の理念です。

他人のことを思い遣り、他人のために尽くすという意味を持ち、社会奉仕・世界社会奉仕活動がこれに当たります。

ロータリーにおける社会奉仕活動はチャリティであってはならず、あくまで自立を助けるボランティア活動でなければなりません。

ボランティア活動でなければなりません。



ロータリーの奉仕活動の実践上の分類は、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、新世代奉仕に分けられ、これを五大奉仕と呼んでいます。

クラブ奉仕とは、会員自らが役割分担をしてクラブの管理運営することです。

クラブを管理運営するた

めの規約として、クラブ定款、細則があります。例会や出席規定は定款で定められており、国際レベルの規定審議会によってのみしか変更することはできませんが、役員、理事会、委員会などほとんどの事項はクラブ細則で定められているので必要に応じてクラブ・レ

クラブ奉仕

- クラブを管理運営するための諸活動
- 定款・細則
- 役員・理事会
- 理事会の先議権
- 例会 出席規定・メイクアップ
- 地区・グループの諸会合
- 同好会

参加することの重要性

ベルで変更することができます。

多くのクラブでは会長、副会長、幹事、会計、会長エレクト、SAA を役員としています。通常奉仕部門の委員長を理事にしますが、会長、幹事を理事にしているクラブもあります。役員と理事を総称して理事会のメンバーと呼んでいます。

他の組織と違って、総会は役員選挙のためだけに開かれ、理事会が唯一の決定機関です。

1週間に1回定められた時間と場所で例会を開催することが定款で定められており、例会に欠席した場合には、その例会の前後2週間以内に他クラブの例会に出席するか何れかの方法によってメイクアップをしなければなりません。

地区主催の各種会合やグループで行うIMなどに参加することが推奨され、これらの会合に出席することもメイクアップとみなされます。クラブによっては親睦会や各種の同好会活動が開催されることもあります。これらの会合には出席義務はありませんが、クラブ内の親睦を深めるためになるべく参加するように心がけましょう。

クラブ奉仕委員会構成例

- ・ 会員増強
- ・ 会員選考
- ・ 職業分類
- ・ ロータリー情報
- ・ 親睦活動
- ・ 広報
- ・ 会報
- ・ プログラム

- ・ クラブの会員規模、特徴を生かした委員会構成をすることが重要
- ・ 委員会構成はクラブ細則に基づいてクラブが自主的に定める
- ・ CLPに基づいた委員会構成が推奨されている

クラブ細則に基づいて、クラブ奉仕の専門分野の委員会を設置することができます。委員会構成はクラブ細則に基づいてクラブが自主的に定めるものであり、クラブの会員規模、特徴を生かした委員会構成をすることが重要です。最近ではCLPに基づいた委員会構成が推奨されていますが、それを採用するか否かはクラブの自由です。クラブ奉仕は自らのクラブの管理運営に直接参加することです。各々の

会員がそれぞれの役割を分担して、全員で参加することが大切です。



職業奉仕

- ・ 自分の職業を通じた奉仕活動
- ・ 自分の事業所・業界の継続的な繁栄
- ・ 実業と虚業との区別
- ・ 職業倫理の向上

職業奉仕活動の受益者はロータリアン

職業奉仕は他の奉仕団体にはない、ロータリー独特な奉仕分野です。

職業奉仕とは自らの職業を通じて社会に奉仕することで、利益を優先して事業を行うのではなく、自分職業を通じて社会に奉仕することを第一義に考えて企業経営をすることが、結果として継続的に利益をえることにつながることを意味します。

社会に奉仕するための事業を実業、自らの利益を優先する事業を虚業と定義しています。

ロータリーの職業奉仕は結果として自らの事業や業界全体の職業倫理の向上につながります。すなわち、職業奉仕実践の受益者はロータリアン本人であることとなります。



社会奉仕

- 地域社会に対する奉仕活動
- 地域社会のニーズに適った奉仕活動
- 職場、地域社会を巻き込んだ個人奉仕が原則
- 諸団体に対する寄付は原則禁止

他人のことを思い遣り、他人を助けるために行う対社会的な活動を社会奉仕と呼んでいます。社会奉仕活動は地域社会のニーズに適った活動でなければなりません。そのためには先ず、現地に赴いてその地域社会のニーズを探って本当に必要な活動かどうかを見極める必要があります。クラブとして団体で行う社会奉仕活動はサンプルに過ぎませんから、個人が職域や地域社会の人々を巻き込んで行う活動が理想的だと言われています。

ロータリークラブが他の団体に寄付をして社会奉仕活動の代替えをすることは禁じられています。



国際奉仕

国際的親睦 <ul style="list-style-type: none">• 世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進	人道的援助 <ul style="list-style-type: none">• 途上国に対する飢餓・貧困・疾病・教育等の国際的援助活動
---	--

↓ ↓

恒久の世界平和

グローバル化した現在、国際レベルの活動が重要になってきました。

その一つは従来からの国際奉仕の目的であるロータリアンの世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進する活動であり、その具体的な活動としてロータリー友情交換、ロータリー親睦活動(現在のグローバル・ネットワーク)、国際青少年交換などが挙げられます。

もう一つの流れは、人道的奉仕活動として、途上国に対する飢餓・貧困・疾病・教育等の国際的援助活動です。これらの世界社会奉仕の活動によって飢餓や貧困が原因となる国際紛争を抑止することが可能ならば、この活動も究極的には恒久の世界平和につながると考えられます。



これらの活動の原資になるのがロータリー財団であり、財団に直接関連する活動として、ポリオプラス・財団補助金・財団奨学金・GSE 等があります。

日本独自の国際奉仕活動として、主にアジアの学生に奨学金を支給する米山奨学会があります。単に奨学金を支給するだけでなくカウンセラー制度を通じてきめ細かく世話をするとところに特徴があります。

ります。

ロータリアンの世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進する活動として、世界親睦活動・ツイン・クラブがあります。



今年度から新世代奉仕が新しい奉仕分野として独立しました。

14 歳から 18 歳の若者を対象にしたインターアクト、18 歳から 30 歳を対象にしたローターアクトがあり、ロータリークラブがホストとして設立して後援しています。

15 歳から 19 歳を対象にした国際青少年交換や青少年指導者育・ライラがあります。

ロータリーの定義

世に有用な職業から
一人一業種で選ばれた
職業人が



それぞれの家庭、職場
地域社会、国際社会で
その奉仕理念を実践に移す



毎週一回開かれる例会に集い
職業上の発想の交換によって
奉仕の理念を学び
人格を向上し



ロータリー活動を定義すると、
ロータリー運動とは、世に有用な職業から一人一業種で選ばれた会員が、毎週一回開催される例会に集って、お互いが師となり徒となって集団で奉仕の心を学びつつ自己研鑽をします。

そして例会場を離れて、それぞれの個人生活、職場、地域社会、国際社会で奉仕活動の実践をすることになります。

変えなければならないもの

- RI・地区、クラブの管理運営
- 奉仕活動の実践

ロータリーに変えてはならないものと、変えなければならないものがあります。

絶対に変えてはならないものは「ロータリーの哲学」すなわち「ロータリーの奉仕理念」です。ロータリーの哲学を変えれば、それはロータリーではなくなるからです。

ロータリーの奉仕哲学は「決議 23-34」に定義されており、その一つは **He profits most who serves best** という職業奉仕の哲学であり、もう一つは **Service Above Self** という人道的奉仕活動の哲学として、二つのモットーと定められています。この二つのモットーはどんなことがあっても絶対に変えてはならないロータリー哲学そのものであることを忘れてはなりません。

変えてはならないもの

ロータリー哲学

ロータリーの奉仕理念
He profits most who serves best
Service above self

変えてはならないものがある一方で、変えなければならないものに、RI・地区、クラブの管理運営や奉仕活動の実践があります。組織の管理運営を長年変更せずに放置しておく、必ず制度疲労を起こします。また奉仕活動の実践はそのニーズの変化に従って、柔軟に対応しなければ何の意味もありません。